

植物防疫基礎講座：アブラムシ類の見分け方(8)

## 花きのアブラムシ類(2)宿根草

元大阪府立食とみどりの総合技術センター 木 村 裕

## Ⅲ 宿根草のアブラムシ

## 1 アスチルベ

ユキヤナギアブラムシ *Aphis spiraeicola* PATCH

花茎が伸長する所に体色が黄緑色で、角状管の黒いアブラムシが時々発生し、蕾や花梗に寄生する。時には新葉の葉裏に寄生し、葉を裏側に巻き込むことがある。

## 2 アブチロン

ワタアブラムシ *Aphis gossypii* GLOVER

春季新葉展開期に、体色が暗緑色（または黄色）で、角状管の黒いアブラムシが新梢、新葉の裏面などに群生する。また、花のがく片や花弁にも寄生する。なお有翅胎生雌虫になる幼虫では白色のロウ質の粉が付着するために灰色に見える。

## 3 アメリカフヨウ

- (1) 角状管は短い。体色は暗緑色または黄色  
 .....ワタアブラムシ
- 角状管は細くて長い。体色は鮮やかな緑色  
 .....チューリップヒゲナガアブラムシ

ワタアブラムシ *Aphis gossypii* GLOVER

春季新梢伸長期～盛夏に、体色が暗緑色または黄色で、角状管が黒いアブラムシがごく普通に発生し、新芽・新梢・新葉・蕾・がく片等に寄生して大きな集団をつくる。

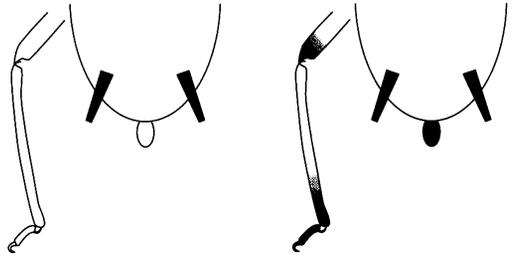
チューリップヒゲナガアブラムシ *Macrosiphum euphorbiae* (THOMAS)

春季新梢の伸長期に、淡緑色で角状管の長い大型のアブラムシが新芽・新葉に時々多発するが、一時的な現象でその後減少する。

## 4 イソギク

キクヒメヒゲナガアブラムシ *Macrosiphoniella sanborni* (GILLETE)

無翅胎生雌虫は長さ2.5～3mm。体色は赤褐色で、触角・角状管・尾片は暗色。角状管は短くて網目状の模様がある。尾片は角状管よりも長く、14本の毛がある。触角第3節には15～30個の二次感覚器がある。



ワタアブラムシ ユキヤナギアブラムシ  
 図-1 ワタアブラムシ（淡黄緑色タイプ）とユキヤナギアブラムシの違い

夏～秋に時々発生し、新芽・新葉・茎に群生する。

## 5 ウインターコスモス

- (1) 体色は黄色，または淡緑色……………(2)  
 — 体色は暗緑色……………ワタアブラムシ
- (2) コーニー内には，すべて同色の個体である。角状管・尾片は黒色……………ユキヤナギアブラムシ  
 — コロニー内には，暗緑色や黄色，または灰色の個体が入り混じる。角状管は黒色だが尾片は体色と同じ……………ワタアブラムシ

ワタアブラムシ *Aphis gossypii* GLOVER

暗緑色または黄色のアブラムシが新芽や新葉に時々発生する。また、有翅胎生雌虫になる幼虫では白色の小斑紋が並ぶために灰色～青白色に見える。

ユキヤナギアブラムシ *Aphis spiraeicola* PATCH

春季、黄緑色のアブラムシが新芽や新葉に時々発生する。寄生を受けた新葉は内側に葉巻状に巻き込むのが特徴である。

## 6 オミナエシ

ユキヤナギアブラムシ *Aphis spiraeicola* PATCH

春季～初秋に黄緑色で、角状管の黒いアブラムシがごく普通に発生する。新芽・新葉・古葉・茎等に群生するが、開花期には群生した小さな花の隙間に潜り込み多発する。

## 7 ガザニア

ワタアブラムシ *Aphis gossypii* GLOVER

春季、暗緑色（時には黄色）で角状管の黒いアブラムシが開花期に蕾の周囲や花弁・花しん内で時々多発する。

Identification of Aphids on Flowers (Perennials). By Yutaka KIMURA

(キーワード：アブラムシ，無翅虫，検索表，花き類)

る。また、有翅胎生雌虫になる幼虫では白色の小斑紋が並ぶために灰色～青灰色に見える。

### 8 カタクリ

#### ジャガイモヒゲナガアブラムシ *Aulacorthum solani* (KALTENBACH)

春季、淡緑色で角状管の長いやや大型のアブラムシが新葉の葉裏にごくまれに寄生するが、多発することはない。

### 9 カーネーション類

- (1) 体色は黒色～暗緑色……………(2)  
 — 体色は淡緑色または黄色……………(3)  
 (2) 体色は黒色で、光沢がある……………マメアブラムシ  
 — 体色は暗緑色……………ワタアブラムシ  
 (3) 角状管は黒色……………ワタアブラムシ  
 — 角状管は体色と同じ……………(4)  
 (4) 角状管の先端部が若干膨れる。体色は淡赤褐色  
 (または淡緑色、または淡黄緑色)で腿節・脛節  
 は体色と同色……………モモアカアブラムシ  
 — 角状管の先端部は細まる。体色は淡緑色で、腿  
 節・脛節の先端部は黒い

……………ジャガイモヒゲナガアブラムシ

#### マメアブラムシ *Aphis craccivora* KOCH

開花期に黒色で光沢がある(白い粉を被っている個体もある)アブラムシが花梗や蕾に時々寄生するが、葉には寄生しない。無翅胎生雌虫になる幼虫はチョコレート色であるが白色のロウ質の粉を装うため灰色に見える。

#### ワタアブラムシ *Aphis gossypii* GLOVER

春季、暗緑色(黄色や緑色タイプもある)のアブラムシが新芽や新葉に時々寄生するが、多発することはない。また、有翅胎生雌虫になる幼虫では体表面に白色の小斑紋が並ぶために灰色に見える。

#### モモアカアブラムシ *Myzus persicae* (SULZER)

春季、淡赤褐色(時には淡緑色)のアブラムシが先端部の新葉にごく普通に発生する。しばしば多発し、排泄物とともに脱皮殻もたくさん付着する。また、蕾・花

梗・茎にも寄生する。

#### ジャガイモヒゲナガアブラムシ *Aulacorthum solani* (KALTENBACH)

春季開花期に、淡緑色のやや大型のアブラムシが新葉・蕾等で時々発生するが多発することはない。

### 10 金の成る木(多肉植物)

#### モモアカアブラムシ *Myzus persicae* (SULZER)

開花期に体色が淡緑色または淡赤褐色で、角状管が長いアブラムシが花房の隙間・花梗に時々群生するが、葉には寄生することはない。

### 11 キキョウ

- (1) 体色は赤褐色……………キキョウヒゲナガアブラムシ  
 — 体色は乳白色で黒色の模様がある

……………キキョウアブラムシ

#### キキョウヒゲナガアブラムシ *Uroleucon kikioensis* (SHINJI)

無翅胎生雌虫は、長さ2.5～3mm、赤褐色～暗赤褐色。脚は黄白色であるが各節の後半部は黒い。角状管は黒色でやや長く、先端部に網目状の模様がある。尾片は黄白色で12～15本の毛がある。

春～夏にごく普通に発生し、新芽・葉裏・茎・がく片で集団をつくる。

#### キキョウアブラムシ *Aulacorthum taiwanum codonopsis* (MIYAZAKI)

無翅胎生雌虫は、長さ2.5～3mm、乳白色であるが胸部および腹部背面には黒色の太い帯状の斑紋、角状管の周囲に丸い斑紋がある。触角の各節の末端部は黒色。角状管は長く、乳白色であるが基部と先端部は黒色である。幼虫は白色で、複眼と触角各節の末端部のみ黒い。

ごく普通に発生し、葉裏に寄生して吸汁するためにその部分は黄化する。多発すると黄化した部分は斑紋状に褐変し、やがて枯れる。

### 12 キク

ワタアブラムシ、モモアカアブラムシ、キクヒメヒゲナガアブラムシ、キククギケアブラムシ、ムギワラギクオマルアブラムシなどがよく発生するが、クロサワアブラムシ *Aphis kurosawai* TAKAHASHI、ヨモギヒメヒゲナガアブラムシ *Macrosiphoniella yomenae* (SHINJI)、キイロヒメヒゲナガアブラムシ *Macrosiphoniella fluvicola* SHINJI、ゴボウクギケアブラムシ *Capitophorus elaeagni* (del GUERRICIO)、ヨモギクギケアブラムシ *Capitophorus formosartemisiae* (TAKAHASHI)、タイワンクギケアブラムシ *Capitophorus formosanus* TAKAHASHI もキクに寄生するといわれている。しかし、クロサワアブラムシ以下のアブラムシ類の寄生状況をまだ観察したことがなく、

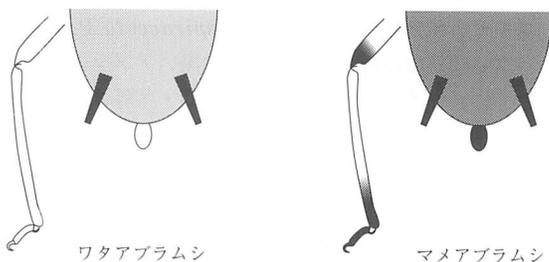


図-2 ワタアブラムシ(暗緑色タイプ)とマメアブラムシの違い



図-3 キクに寄生するアブラムシ類の角状管と尾片

発生はごくまれと思われるのでここでは省略する。

- (1) 体色は鮮やかな赤褐色で茎に行列する  
 ……………キクヒメヒゲナガアブラムシ  
 — 体色は黄色～緑色～暗緑色で、葉や成長点に寄生する……………(2)
- (2) 体色は暗緑色……………ワタアブラムシ  
 — 体色は淡緑色～緑色、または淡赤褐色……………(3)
- (3) 角状管は黒色で短い……………(4)  
 — 角状管は淡緑色～緑色で長い……………(5)
- (4) 角状管は非常に短くて、基部半分は淡緑色  
 ……………ムギワラギクオマルアブラムシ  
 — 角状管全体が黒い……………ワタアブラムシ
- (5) 体色は淡赤褐色(または黄緑色、または淡緑色)で、角状管の先端部が少し膨れる  
 ……………モモアカアブラムシ  
 — 体色は淡黄緑色、角状管は非常に長くて、先端は細まる……………キククギケアブラムシ

**キクヒメヒゲナガアブラムシ *Macrosiphoniella sanborni* (GILLETE)**

夏～秋に赤褐色でよく目立つアブラムシがごく普通に発生し、新芽・新葉・茎・花梗・蕾に行列する(イソグクの項参照)。

**ムギワラギクオマルアブラムシ *Brachycaudus helichrysi* (KALTENBACH)**

淡緑色の小さなアブラムシが主として新芽や展開中の新葉の隙間に寄生する。

**ワタアブラムシ *Aphis gossypii* GLOVER**

暗緑色(または黄色)のアブラムシが周年ごく普通に発生し、展開中の新葉の内側に好んで寄生する。また、有翅胎生雌虫になる幼虫では白色の小斑紋が並ぶために灰色に見える。

**モモアカアブラムシ *Myzus persicae* (SULZER)**

開花期に、淡黄色(または赤褐色、または淡緑色)のアブラムシが花卉に発生するが、多発することはない。

**キククギケアブラムシ *Pleotrichophorus chrysanthemi* (THEOBALD)**

無翅胎生雌虫は、長さ2～2.5mm、淡黄緑色～淡緑

色で、胸部・腹部背面に多くの緑色の小斑点があり、わずかにロウ質の白色の粉を被る。触角は長く、触角台は顕著で第3節基部に2～3個の二次感覚器がある。体背面に釘状の毛(扇形に先端が広がる毛)がある。尾片は太く5本の毛がある。

ごく普通に発生し、主として葉裏に寄生する。

**13 クジャクサボテン**

- (1) 体色は黒色……………マメアブラムシ  
 — 体色は淡緑色または淡赤褐色  
 ……………モモアカアブラムシ

**マメアブラムシ *Aphis craccivora* KOCH**

体色が黒色で光沢のあるアブラムシが蕾に寄生し、多発すると蕾全体が虫で包まれる。

幼虫はチョコレート色であるが、白い粉を被っているために灰色に見える。

**モモアカアブラムシ *Myzus persicae* (SULZER)**

体色が淡緑色または淡赤褐色で、角状管の長いアブラムシが蕾に寄生する。

**14 クレマチス**

**ハンショウツルヒゲナガアブラムシ *Macrosiphum clematifoliae* SHNJI**

無翅胎生雌虫は長さ3mm前後、体色は淡黄緑色で、腹部背面に濃緑色の縦の条線がある。角状管は細くて長く、黒色(基部を除く)で、先端部には網目状の模様がある。触角第3節基部には6～12個の二次感覚器がある。

主として葉裏に寄生するが、常時発生する害虫ではない。

**15 サクララン**

**キョウチクトウアブラムシ *Aphis nerii* BOYER DE FONSCLOMBE**

無翅胎生雌虫は長さ2mm前後、体色は鮮やかな橙黄色で触角・角状管・尾片・脚は黒色である。角状管はやや長く、尾片には14本前後の毛がある。

つる・房状になった花の隙間などで時々発生し、大集団をつくる。

## 16 宿根カスミソウ

モモアカアブラムシ *Myzus persicae* (SULZER)

体色が淡赤褐色または淡緑色で、角状管の長いアブラムシが葉・茎に時々寄生する。

## 17 宿根スターチス

ユキヤナギアブラムシ *Aphis spiraeicola* PATCH

開花期に体色が黄緑色で、角状管の黒いアブラムシが花梗や蕾・花房・新葉で時々発生する。展開ずみの葉での寄生はまだ確認していない。

## 18 西洋オダマキ

下記の4種類が確認されており、主として茎・花梗・蕾・花弁などに寄生するが、葉での寄生はほとんどない。

## (1) 体色は淡緑色で、脚・触角は黒色

……………ニワトコフクレアブラムシ

## — 体色は淡緑色または淡赤褐色で、脚・触角も同色である……………(2)

## (2) 角状管は先端部が少し膨れる

……………モモアカアブラムシ

## — 角状管は先端に向けて細まる……………(3)

## (3) 角状管は細くて非常に長い。角状管の先端部はわずかに黒色……………チュウリップヒゲナガアブラムシ

## — 角状管は長い。腿節、脛節の先端部、角状管の先端部は黒色……………ジャガイモヒゲナガアブラムシ

## 19 セントポーリア

モモアカアブラムシ *Myzus persicae* (SULZER)

春季、体色が淡緑色（または淡赤褐色）で、角状管の長いアブラムシが花弁に時々寄生するが、葉での寄生は確認していない。

## 20 ツルニチニチソウ

ユキヤナギアブラムシ *Aphis spiraeicola* PATCH

春季、体色が黄緑色で、角状管の黒いアブラムシがつる・葉・蕾・花弁などでしばしば多発し、葉には油滴状の排泄物が付着して汚れる。

## 21 ツワブキ

ユキヤナギアブラムシ *Aphis spiraeicola* PATCH

秋期開花期に、体色が淡緑色で、角状管の黒いアブラムシが蕾・花弁に時々発生し、花弁をねじ曲がらせる。

## 22 トリトマ

ワタアブラムシ *Aphis gossypii* GLOVER

開花期に体色が黄色（または緑色、または暗緑色）で、角状管の黒いアブラムシが群生した花の隙間で時々発生するが、葉での寄生は確認していない。

## 23 ノコンギク

## (1) 黄緑色～緑色で、脚・触角・角状管は黒色

……………ヨメナヒメヒゲナガアブラムシ

## — 淡黄緑色、または淡赤褐色で、脚・触角・角状管は体色と同じ……………モモアカアブラムシ

ヨメナヒメヒゲナガアブラムシ *Macrosiphoniella yomenae* SHINJI

無翅胎生雌虫は長さ2mm前後、頭部・胸部背面・角状管・脚は黒色、腹部背面に多くの鮮明な小斑紋がある。触角第3節には30個前後の二次感覚器がある。角状管は長く、先端部には網目状の模様がある。尾片は大きく・長く、約17本の毛がある。

葉裏に寄生するといわれているが、まだ発生を確認していない。

モモアカアブラムシ *Myzus persicae* (SULZER)

主として新葉の葉表に寄生し、寄生を受けた新葉は両縁が内側に巻き込んで縮れる。各地でごく普通に発生し、縮れた葉の内側に淡緑色（または淡赤褐色）のアブラムシが見つかる。

## 24 ハナトラノオ

ハナトラノオコブアブラムシ *Cryptomyzus taoi*

## HILLE RIS LAMBERS

無翅胎生雌虫は長さ2mm前後、体全体が黄白色～白色（透明に近い）で、角状管は長い。体背面には釘状の長い毛があり、触角第3節基部に約10個の二次感覚器がある。

常時発生する種ではないが、発生すると多発し、葉には多くの脱皮殻が付着し、すす病も発生する。

## 25 ヒメシャガ

ニワトコフクレアブラムシ *Aulacorthum**magnoliae* (ESSIG and KUAWANA)

開花期に体全体が緑色で、脚が黒色のよく目立つアブラムシが蕾に寄生することがあるが、発生はまれである。

## 26 フジバカマ

ムギワラギクオマルアブラムシ *Brachycaudus**helichrysi* (KALTENBACH)

新梢部の新葉が赤味を帯び、縮れて内側にねじれて巻き込む。その内側には淡緑色のアブラムシが群生し、ごく普通に発生する。

## 27 ブルークロウバ

マメアブラムシ *Aphis craccivora* KOCH

黒色で光沢のあるアブラムシが新芽・葉・花梗・蕾・花弁などに時々発生する。幼虫はチョコレート色であるが白色のロウ質の粉を装うため灰色に見える。

## 28 ブルーデージー

ワタアブラムシ *Aphis gossypii* GLOVER

体色が暗緑色(または黄色)で、角状管の黒いアブラムシが新芽・葉裏・花梗に時々発生する。有翅胎生雌虫になる幼虫では白色の小斑紋が並ぶために灰色に見える。

## 29 ヘメロカリス

カンゾウコブアブラムシ *Myzus hemerocallis*

TAKAHASHI

無翅胎生雌虫は長さ1.5mm前後、体色は淡黄緑色で、角状管は長い。尾片は三角形で5本の毛がある。

主として葉の基部の隙間に寄生し、アリが土砂でアブラムシのコロニー全体を覆い隠すことが多い。また葉が重なり合った新葉の隙間にも好んで寄生する。

ゴンズイノフクレアブラムシ *Indomegoura indica* (van der Goot)

無翅胎生雌虫は長さ4mm前後と大きい。体色は鮮明な橙黄色であるが、多量の白色のロウ質の粉で覆われるために白く見える。触角と角状管は黒色。触角第3節基部に約10個の感覚器があり、角状管は先端部がくびれて網目状の模様がある。

花梗が伸び出すところに時々発生し、花梗・蕾などに群生する。

## 30 ホクシャ

モモアカアブラムシ *Myzus persicae* (SULZER)

淡緑色(または淡赤褐色)で、角状管の長いアブラムシが花卉や新葉に寄生することがあるが、発生はまれである。

## 31 ポーチュラカ(花スベリヒユ)

- (1) 体色は黒色または暗緑色……………(2)  
— 体色は黄色、または淡緑色、または淡赤褐色……………(3)
- (2) 体色は黒色で光沢がある……………マメアブラムシ  
— 体色は暗緑色で光沢はない……………ワタアブラムシ
- (3) 角状管は長く、中央より少し先の部分で膨れる……………モモアカアブラムシ  
— 角状管は短く、先に向かって若干細くなる……………ワタアブラムシ

マメアブラムシ *Aphis craccivora* KOCH

黒色のアブラムシが新芽や蕾に時々寄生し、ワタアブラムシやモモアカアブラムシともしばしば混発する。

ワタアブラムシ *Aphis gossypii* GLOVER

暗緑色(または黄色)のアブラムシが新芽や蕾に時々寄生する。

モモアカアブラムシ *Myzus persicae* (SULZER)

淡緑色(または淡赤褐色)のアブラムシが新芽や蕾に時々寄生する。

## 32 マーガレット

- (1) 体色は暗緑色……………ワタアブラムシ  
— 体色は淡赤褐色……………モモアカアブラムシ  
— 体色は淡緑色～淡黄色……………(2)
- (2) 角状管は黒色で短い……………(3)  
— 角状管は淡緑色で長い……………モモアカアブラムシ
- (3) 角状管の基部半分は淡緑色……………ムギワラギクオマルアブラムシ  
— 角状管全体が黒色……………ワタアブラムシ
- ムギワラギクオマルアブラムシ *Brachycaudus helichrysi* (KALTENBACH)

新芽や新葉に淡緑色のアブラムシが寄生することにより、その表面からヤニ状の粒状物が噴き出すことが多い。ごく普通に発生し、花梗・蕾・花卉等にも寄生する。

モモアカアブラムシ *Myzus persicae* (SULZER)

淡赤褐色または淡緑色で角状管の長いアブラムシが葉や茎に時々発生し、多発するとすす病も発生する。

ワタアブラムシ *Aphis gossypii* GLOVER

暗緑色または黄色で角状管の黒いアブラムシが茎葉に寄生し、多発するとすす病も発生する。

## 33 ミセバヤ(多肉植物)

ワタアブラムシ *Aphis gossypii* GLOVER

開花期に、暗緑色(または黄色)のアブラムシが葉や花房の隙間で時々多発する。

## 34 緑の鈴(多肉植物)

- (1) 角状管は黒色で短い……………ユキヤナギアブラムシ  
— 角状管は淡緑色で非常に長い……………チューリップヒゲナガアブラムシ

ユキヤナギアブラムシ *Aphis spiraeicola* PATCH

体色が淡黄緑色～黄色で、角状管の黒いアブラムシがつる・球状の葉・花梗に時々発生する。

チューリップヒゲナガアブラムシ *Macrosiphum euphorbiae* (THOMAS)

大型で、体色が淡緑色で、体長よりも長い触角をもったアブラムシがつる・球状の葉・花梗に時々発生する。

## 35 ユキノシタ

モモアカアブラムシ *Myzus persicae* (SULZER)

体色が淡赤褐色(または淡緑色)で、角状管の長いアブラムシが葉表や葉柄に時々発生する。発生すると多発して群生する。

## 36 洋ラン

下記の5種類が蕾・花弁に寄生するが、葉には寄生しない。

- (1) 体色は黒色～暗緑色……………(2)  
 — 体色は淡赤褐色……………モモアカアブラムシ  
 — 体色は淡緑色～淡黄色……………(3)  
 (2) 体色は黒色で光沢がある……………マメアブラムシ  
 — 体色は暗緑色で光沢はない……………ワタアブラムシ  
 (3) 角状管の中央から少し先の部分が膨れる。触角は体長よりも短い……………モモアカアブラムシ  
 — 角状管は先端に向かって細くなる。触角は体長よりも長い……………(4)  
 (4) 腿節・脛節の先端部は黒色。角状管は非常に長い……………ジャガイモヒゲナガアブラムシ  
 — 腿節・脛節は淡緑色。角状管は長い

……………チューリップヒゲナガアブラムシ

洋ランではモモアカアブラムシが最も普通に発生する種である。

マメアブラムシとワタアブラムシの暗色タイプはよく似ていて区別は難しいが、幼虫を含めたコロニー全体を見て黄色のタイプの幼虫が混じっていればワタアブラムシ、チョコレート色の幼虫群の場合はマメアブラムシと判断する。しかし、有翅胎生雌虫になる幼虫群ではどちらの種も灰色に見えるので判別は難しい。

## 37 リシマキア

ワタアブラムシ *Aphis gossypii* GLOVER

体色が暗緑色（または黄色）で、角状管の黒いアブラムシが葉・茎・蕾などに時々発生して群生する。有翅胎生雌虫になる幼虫では白色の小斑紋が並ぶために灰色に見える。

## 書 評

## 水田の昆虫誌

—イネをめぐる多様な昆虫たち—

矢野宏二 著

A5版、口絵カラー4+175ページ、定価2,800円+税  
 東海大学出版会発行、2002年、ISBN: 4-486-03160-1

本書には、水稻の害虫対策のみならず水田生態系の昆虫類の多様性、日本や外国事例の今昔など、グローバルな視点で興味深い話題が多く載せてある。特に、従来の水田昆虫に関する書物では、ほとんどが害虫やその防除を内容としたものであったが、本書のように膨大な昆虫類を主対象にしたものはなく、近年注目されている生物の多様性に大きく踏み込んでいる。

内容は、第1章の水田昆虫のすみかから始まり、どれだけの昆虫がいるのか、水田昆虫相の移り変わり、特徴、生活史、最終の第6章でイネ害虫管理の今昔を世界と日本の話で興味深くまとめている。

我々農業試験場の害虫研究者では、水田の膨大な昆虫類の識別はやりたくても到底できない。これができるのは、著者が分類学者でもあるからで、うらやましいかぎりである。園芸害虫では、在来天敵相の解明やその利用の研究も多くなっているが、分類学者の不足により不自由な研究環境になっている。本書は、これら生物多様性の課題を先駆的に取り組んでおり、今後の虫害管理のあ

り方も示唆している。

水稻を扱っている研究者、指導者、農業者の他、いろいろな作物に関係している人にも今後の研究方向、防除の考え方など大いに参考となる書物である。ぜひ一読をお勧めしたい。

また、熱帯昆虫学（九州大学出版会、1999年）をまとめた著者の次の目標は、水田全昆虫を対象とした「水田昆虫学」の構築ということらしい。水田昆虫の種類数の推定やトンボ、ユスリカ、ヤチバエ、アタマアブ、ゴミムシなどの多様な生活史、さらには農家の害虫認識度など他書では見られないテーマも興味深いですが、これらがさらに豊富な記述となって、完成される日が待たれる。

## 主要目次

第1章水田昆虫のすみか（水田の中、畦畔、灌漑水路と貯水池）、第2章水田にはどれだけの昆虫がいるのか（無視された水田昆虫の研究と水田昆虫学の誕生、今までに記録された種類）、第3章水田昆虫相は移り変わる（日本の例、外国の例）、第4章水田昆虫相の特徴は（稲作の起源と昆虫相、水田昆虫の特徴）、第5章水田昆虫の生活史（トンボ、アブラムシ、水生半翅類と甲虫類、ゴミムシ、ニカメイガ、ユスリカ、アタマアブ、ヤチバエ、ハナアブ、アリ、天敵昆虫、雑草昆虫と訪花昆虫、灯火飛来昆虫）、第6章イネ害虫管理の今昔（今までの害虫防除、生物的防除の試み、総合防除の展望、農家の認識と対応、管理法の差と昆虫相、その他）

（山口県農業試験場 和泉勝憲）